研究構想シート

学校名	津和野町立日原小学校
氏名	竹田　宏美

A　研究主題

主体的に学びに向かい、表現できる児童の育成　～国語科の授業を通して～

B　研究の目的

主体的に学びに向かい表現できる児童を育成するために、国語科の授業において、どのような指導を行えばよいのか、その効果的な指導のあり方を実践を通して明らかにする。

C　子どもの実態

△進んで自分の意見や考えを伝えたり、筋道を立てて論理的に伝えたりする力が弱い
△文法や文章の構成をとらえることが弱い
△上記の弱みが各教科にも広がっているのではないか
↑上記の児童の実態から、３カ年計画の本研究を始めた。今年度は、その３年目である。

１年目は、「語彙力を増やすための指導の工夫」を重点として、国語重要語句の掲示や図書館教育の充実に取り組んだ。

２年目は、「文章の構成を意識した書く活動の工夫」を重点として、文章の構成を意識した指導の工夫や書く活動の工夫に取り組んだ。

昨年度の学力調査の結果から、漢字を書いたり読んだりする力や、自由に文章を書く力はついてきたとみられる。

しかしながら、内容を要約する力や問われたことに的確に答える力の弱さが見られた。また、自分の思いを書くことはできても、自信を持って発表することに対して抵抗のある児童が多い。

そこで、今年度は、「表現する場の設定」に重点を置き、書いたり話したりして自分の思いや考えを表現する場や、それらを見る機会を多く設定し、自分の表現しやすい方法の獲得や、表現することへの楽しさや達成感を得られるよう工夫していきたいと考える。

E　手立て・内容（研究仮説）

＜研究仮説＞

国語科において語彙力を増やすための指導を工夫したり、文章の構成を意識して書かせる活動を取り入れたり、発信したい情報を様々な手段で表現する場の設定を工夫したりすれば、主体的に学びに向かい表現できる児童が育つであろう。

＜今年度の取り組みの重点＞

発信したい情報を様々な手段で表現する場の設定

ア）学級でのスピーチの充実　　イ）ICT機器の積極的な利用
ウ）書く活動による成果物の掲示の工夫
エ）日々の授業や様々な行事でのふりかえりの工夫
オ）全校の前での各学級による発表

F　検証方法

○児童の表現活動からの評価（ノート・作成物・発言・つぶやき）
○学力調査結果
○学校評価の成果指標

＜今年度の学校成果指標＞
○これまでに学習したことを使って、自分で課題に取り組んでいます。（児童）
○話し合い活動では、相手の伝えたいことを考えながら聞いています。（児童）
○自分の考えを、相手に分かるように伝えようとしています。（児童）
○対話的な活動の場を多く設けた。（職員）

G　研究計画

５月：今年度の研究計画について（指導案の書き方、公開授業の内容等について）
※以降、月１回の研修職員会
６月～１月：学年発表、公開授業（１人１授業）、各研修報告
※夏季休業中：１学期の実践の振り返り、２学期・３学期に向けての取り組みの検討
２月：今年度の研究のまとめ
３月：来年度の研究へ向けて

D　めざす子どもの姿

①自分の意見や考えを進んで伝えようとする子
②語彙力を高め、自分の考えを筋道をたてて伝えようとする子
③友達の考えと自分の考えを比べながら、考えを深めようとする子
④学んだことを学習や生活に活かしていく子